



【第3回】 農産物直売コーナー

伝統野菜のほか、地域の農家が丹精込めて育てた新鮮な野菜や果物、花き、山菜やきのこなど、四季折々の農産物を販売する予定です。

また、これらの地場野菜を加工して提供する加工施設も併設し、食材だけでなく、置賜の「味」、「食文化」も提供することで、農業の活性化とともに、地域文化の発信も期待されています。

東北中央自動車道の福島〜米沢間の開通により、近隣はもちろんのこと、様々な地域から訪れる人に四季折々の置賜の食材、食文化を提供する場として大きな役割を担う施設です。

農産物直売コーナーでは、「つごぎ」、「薄皮丸なす」、「雪菜」など置賜地域を代表する

* * *

「(仮称)道の駅よねざわ」 農産物等直売コーナーの 出荷者登録手続き説明会

■日時 / 7月13日(木)
18時30分〜

■会場 /
すこやかセンター

■内容 / 出荷規程、組合規約及び出荷者登録手続きについて

※登録に必要な資料も配布します。

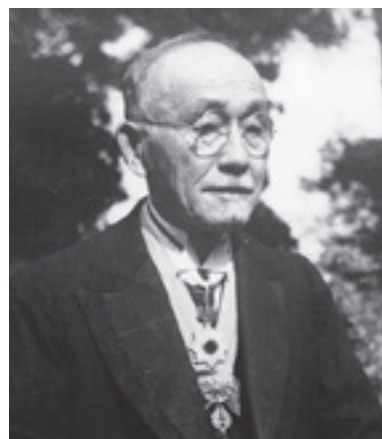
■申込締切 /
7月12日(水)

■申込・問合せ /
農林課農政担当

☎ 22-5111



Chuta Ito 伊東忠太 (1867 - 1954)



山形県立図書館蔵

見ることが出来ます。

エピソード5

有為会の結成と 名誉市民第1号

明治22年、米沢出身者の「相互の親睦と切磋琢磨」を図るため、忠太の発案により有為会が結成されました。

有為会は郷土関係者の賛同を得て、翌23年末までに429人の会員を集めました。その後、米沢有為会と改称し、寄宿舎「興讓館」を開設して奨学育英事業を行うなど郷土の有為な人材の育成に大きな役割を果たし続け、公益社団法人米沢有為会として現在に至っています。

昭和18年、忠太は建築界における卓越した功績から文化勲章を受章しました。建築界では初めての栄誉であり、山形県出身者としても初の受章でした。

昭和29年、市は米沢市名誉市民条例を定め、第1号として忠太に名誉市民の称号を贈り、その栄誉を讃えています。

名誉市民第1号の伊東忠太。後編の今回は忠太の建築と米沢有為会について取り上げます。

忠太の建築と 動物・妖怪のルーツ

忠太の設計した建物は平安神宮、明治神宮、湯島聖堂をはじめとして著名なものが多く、県内では明善寺(山形市)や亀岡文殊堂(高島町)、市内には上杉神社があります。こうした神社仏閣に加えて、個人の邸宅、墓、記念碑に至るまで幅広く建築設計を手掛けました。

忠太の建築には、中国・イ

ンドの影響を受けた不可思議な動物・妖怪で外観を飾るという大きな特色があります。とりわけ築地本願寺や大倉集古館、一橋大学兼松講堂は有名で、忠太の好んだ動物・妖怪がいたるところに散りばめられています。忠太の妖怪好きは、幼い頃に母はなから聞かされたおとぎ話の影響が大きかったといわれています。

また、絵を描くのが好きだった忠太は、「潜龍」の号を持ち、野帳やノート、葉書などにも優れた作品を残しました。葉書に描いた風刺漫画を収録した『阿修羅帖』には、多彩な才能の一端を垣間